

ヨハネの福音書 (60)

「しるし・信仰・いのち」

ヨハ 20 : 30～31

1. 文脈の確認

(4) イエスの受難 (18～20 章)

- ①イエスの逮捕 (18 : 1～11)
- ②イエスの宗教裁判 (18 : 12～27)
- ③イエスの政治裁判 (18 : 28～40)
- ④有罪判決 (19 : 1～16)
- ⑤十字架刑 (19 : 17～30)
- ⑥埋葬 (19 : 31～42)
- ⑦復活 (20 : 1～18)
- ⑧12 弟子への顕現 (20 : 19～29)
- ⑨執筆目的 (20 : 30～31)

2. 注目すべき点

- (1) なぜヨハネの福音書は書かれたのか。
- (2) 本書は唯一、はっきりと「執筆目的」を述べている書である。
- (3) 本書は、「歴史の書」、「証拠の書」、「救いの書」である。

ヨハネの福音書には執筆目的がある。

「しるし・信仰・いのち」という 3 つのキーワードがそれを明らかにしている。

I. しるし

Joh 20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

Joh 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

1. ヨハネは「しるしのほんの一部」しか書かなかった。

(1) 「しるし (セーメイオン)」とは何か。

- ①ただの奇跡ではない → イエスの本質を示す証拠である。
- ②7 つの「I AM」と対応する神学的役割がある。

(2) ユダヤ人にとって「しるし」とは。

- ①神が本当にその人物を遣わしたのかどうかを確認する「メシア認定の証拠」

- ②ただの超常現象ではない。
- ③人を驚かせるためのものではない。
- ④神からの認証 (divine authentication) である。

2. ヨハネが選んだ「7つのしるし」

(1) カナで水をぶどう酒に (2 : 1～11)

- ①最初のしるし
- ②キリストがもたらす救いの喜び

(2) 王室の役人の息子を癒す (4 : 46～54)

- ①第2のしるし
- ②権威による遠隔の癒し
- ③信仰の成長

(3) ベテスダ池で病人を癒す (5 : 1～9)

- ①文脈上のしるし
- ②イエスは安息日の主
- ③意欲を失った人に与えられる恵み

(4) 五千人の給食 (6 : 1～14)

- ①人々は「しるし」を見た。
- ②いのちのパンであるイエス

(5) 湖の上を歩く (6 : 16～21)

- ①文脈上のしるし
- ②自然界に対する主権

(6) 生まれつきの盲人の癒し (9 : 1～7)

- ①「どうしてこのようなしるしを行うことができるだろうか」
- ②肉の目を開き、霊の目を開く。

(7) ラザロの復活 (11 : 1～44)

- ①「あの者が多くのしるしを行っているというのに」
- ②イエスは「いのち」を与える主

(8) イエスご自身の復活 (20 章)

- ①文脈上のしるし
- ②すべてのしるしの頂点
- ③8 は始まりを示す数字である。

3. しるしと信仰の関係

(1) しるしは信仰へ導くが、しるしそのものが救うのではない。

- ①しるしを見ても信じない人
- ②しるしなしでも信じる人

II. 信仰

Joh 20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

Joh 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

1. 「イエス」という名の意味

(1) ヘブル語でイエシュア＝主は救う。

- ①イエスは救いの唯一の道 (ヨハ 14 : 6)

2. 「神の子」の意味

(1) 単なる称号ではなく、神と同等の本質を持つ方。

- ①「神の子」とは「神と等しい存在」との宣言
- ②ヨハ 5 : 18

Joh 5:18 そのためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。

- ③ヨハ 14 : 9

Joh 14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。

3. 「キリスト (メシア)」という称号の意味

(1) メシア＝油注がれた者

- ①王・祭司・預言者
- ②イザ 61 : 1 (ルカ 4 : 18 でイエス自身が引用)

Isa 61:1 【神】である主の霊がわたしの上にある。／貧しい人に良い知らせを伝えるため、／心の傷ついた者を癒やすため、／【主】はわたしに油を注ぎ、／わたしを遣わされた。／捕らわれ人には解放を、／囚人には釈放を告げ、

4. どれだけ信じているかではなく、誰を信じているか。

Ⅲ. いのち (ゾーエー)

Joh 20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

Joh 20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

1. ただの生存 (ビオス) ではない。

(1) 「神との交わりにある永遠のいのち」

①ヨハ 10 : 10

Joh 10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

2. 「イエスの名によって」とは

(1) 名 = 権威・人格・救いの働き

①自力救済ではなく「キリスト依存の救い」

3. 信仰の目的は「知識」ではなく「いのち」である。

(1) 信仰は情報ではなく関係である。

①信じる = 委ねる (ピステューオー)

今日の信者への適用

1. しるしの目的は信じるため

(1) しるしは、キリストへ導くために与えられた。

2. 信じる目的はいのちを得るため

(1) 「情報としての信仰」ではなく「人格的信頼としての信仰」

3. いのちを得る道はただ一つ：キリスト

(1) 他の宗教にも「真理の残渣」はある。

(2) 救いに至る啓示は、聖書だけに記されている。